

人文社会科学部教学アセスメントプラン

1. アセスメントの目的

大学をめぐる社会情勢や本学の学生の状況を視野に入れつつ、データに基づいた大学全体、学部および学位プログラムとしての専門教育の教育改善（カリキュラム改善・授業改善を含む）と、学修支援、学生支援の一層の向上を図ることを目的として、学修成果のアセスメントを行う。

アセスメントでは、直接評価と間接評価を取り入れる。直接評価については、教育に関する各種指標を収集・分析し、間接評価については、学生に対するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートにおいて在学時の学修状況、卒業時の能力獲得状況、卒業後の能力活用状況を測ることで、学生全体の状況と、個々の学生の変化を追跡する。このデータを教育に関する各種指標と併せて分析することで、学修支援の改善を行い、学修支援・学生支援への活用を図ることを目指す。

2. 達成すべき水準

アセスメントに当たり、人文社会科学部では、達成すべき質的水準を学部として、および学位プログラムごとに定めている。アセスメントにあたっては、この質的水準に対する到達を中心に確認を行う。

3. アセスメントの方法

別紙のとおり。

各種指標、調査	評価項目	評価の観点	実施時期・頻度	結果の活用方法
成績評価分布	履修者の単位修得状況及び成績評価比率	【各授業科目】履修者が授業の到達目標をどの程度の水準で達成できているか、また到達目標の設定が妥当なものであるかどうかを確認する。	毎年2回	授業の到達目標の達成水準の設定及び成績評価方法の検証に活用する。
		【各プログラム】授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われているか、成績評価の分布に偏りがどうかを組織的に確認する。	毎年2回	成績評価の在り方の改善に活用する。
授業アンケート (専門科目)	学修の充実度、学修行動、授業運営への満足度	各授業科目における学修プロセスの適切さや授業・学修への満足度・充実度を確認する。	毎年2回(各学期末)	授業の改善に活用する。
GPA 分布	学科・コースごと、年次ごとのGPAの平均値・分布	組織として、学修の達成度が期待される水準にあるか確認する。	毎年1回	学修の達成度把握と学修指導に活用する。
DP 達成量	単位修得状況とカリキュラム・チェックリストに基づき算出したDP達成量	DP達成量の推移から教育課程の妥当性を確認する。	毎年2回	教育課程の改善に活用する。
DP 達成度自己評価	DP に対する達成度自己評価	DPの各項目に対する達成度とその推移から学修成果を確認する。	毎年2回	教育課程の改善と学修指導に活用する。
学修ポートフォリオ	学修の進捗状況、学修目標に対する自己評価	アドバイザー教員との面談により、履修状況の相互理解を図る。	毎年2回	学修計画の修正・改善に活用する。
教職ポートフォリオ	学修の進捗状況、学修目標に対する自己評価	アドバイザー教員との面談により、履修状況の相互理解を図る。	毎年1回	学修計画の修正・改善に活用する。
卒業研究評価	学修の達成度、および卒業論文の指導体制、評価体制	DPで定めた学修成果の達成度を確認し、あわせて指導体制、評価基準の在り方を確認する。	毎年度末(4年次)	学修の達成度把握と卒論指導の改善に活用する。

卒業時調査	教育や大学生活への満足度、卒業後の進路	教育内容全般や大学生活全般への満足度や充実度を確認する。予定している卒業後の進路を確認する。	毎年1～3月(4年次)	教育課程の改善に活用する。
卒業率、留年率、中途退学率	標準修業年限以内での学位の取得状況や退学率	標準修業年限以内で学位の取得に至っている比率(卒業率)を確認する。留年率、退学率が高い場合はその要因を確認する。	毎年1回	教育課程の改善、学生生活の支援に活用。
卒業生の進路	卒業生の就職率・進学率、就職先、進学先状況	就職の状況、進学の状況がDPに則して妥当なものであるか、DPに則した人材育成がなされているかを確認する。	毎年1回	教育課程の改善、キャリア教育に活用。
卒業後調査	現在の就業、大学からの学修・支援と仕事の関連(DPと卒業後の関連)	学位授与に際して身につけた能力が卒業後に活かされているか、在学中にさらに身につけておいた方がよかった能力を確認する。	3年に1度	教育課程の改善に活用。学内の環境整備に活用する。
雇用先アンケート	卒業生の雇用先における学修を踏まえた活躍の評価	卒業生が卒業後に在学時の学修成果を生かしているか、それについて外部の視点から見てどのようなものであるかを確認する。	3年に1度	教育課程の改善、キャリア教育に活用。